

校長室だより



令和5年9月29日

No.15

9月も終わりだというのに30℃…まったくどうなっているんでしょう？でも、朝、スクールバスを待つ間に、たくさんの葉っぱが風に舞って落ちてきました。ある先生が「秋ですね」とポツリ。秋の一場面も確実に増えてきていますね。

え〜っと、今週末の校長室だよりはお休みという予定だったんです。なぜなら28日、29日は小6の修学旅行で私も引率で今頃はソレイユの丘にいるはず…。だから、校長室だよりを書く時間はなさそうなのでパス…のつもりだったんですが、学年の中で複数の人が熱発や体調を崩してしまったため、今回は残念ながら延期ということにさせていただきました。何とか年度内にもう一度…ということで担任の先生たちが再調整にチャレンジしてくれています。また今度のお楽しみに。

該当学年の子どもたち、そして、保護者の皆様には大変申し訳ありません。実施寸前での延期という判断をせざるを得ないのは校長としてつらいことですが、子どもたちの安全確保が第一ということで、ごめんなさいです。ほんごうに来てから行事の中止、延期は何回目か…。前の須藤校長先生のように「来年は宿泊は一切なし」とか決めてしまう勇気もなく、行けるかな、行きたいな、できるかな…どっちなんだい！になってしまい、今回のように残念な気持ちにさせて、申し訳ありません。でも、この後の行事は何とか無事に実施できるといいな。(そう言えば、運動会はこの3年間に何回延期したんだっけ…とまた叱られそうですが…)

そこで思い出したことがあります。私も中学生の時、修学旅行が一回延期になりました。50年くらい前に何か…？いえ、感染症とかではなく、この時の理由は「遵法闘争(じゅんぼうとうそう)」。最近では若い先生達でもなかなか読めない、ほとんど聞いたことのない言葉ですね。これは官公庁などストライキができない労働団体が法律やルールをきっちり守ることで逆に業務の停滞を引き起こしストライキと同じような効果を引き出すという、わかったような、わからないような労働争議の方法です。有名なのが国鉄(今のJRの前身)の遵法闘争。安全確認や速度調整などを徹底して、電車を走らせないことで労働条件改善などの労使間交渉を有利にするという方法です。通勤にものすごい時間がかかったり、一部の電車が大混雑になったり、いろいろな交通機関や社会生活にも影響が出てしまい、けっこう批判も受けていました。これに引っかけたのが田舎の中学校の修学旅行。京都に行く電車が走らない??ということで、延期…3か月くらい後の実施となりました。中学生ですからストライキとか労働組合とか、なんのことかまだわからないわけで、ただ「修学旅行は延期」の気持ちだけが残り、みんなで「国鉄のバカヤロー！」と叫んだことだけはいまだに覚えています。昔々のお話でした。

小6の子たちが大人になるころ「そう言えば、修学旅行が延期になって…」なんて思い出してくれるかな？「ああ、あの時の校長がびびって延期にして…」だから、ごめんなさいって！



少し秋の色も…